

O1-011

健やか子育てガイドによる検証：育児困難感とメディア活用の関連について

秋山千枝子¹、阪下 和美²、岩元晋太郎³、前川 貴伸⁴、七種 朋子⁵、河野 由美⁶、小枝 達也⁴

¹あきやま子どもクリニック

²特定医療法人生仁会 須田病院 精神科

³国立成育医療研究センター研究所 生物統計ユニット

⁴国立成育医療研究センター

⁵久留米大学小児科

⁶自治医科大学小児科

【目的】

我々は、乳幼児健診において、Bio-Psycho-Socialな視点から保健指導をするために、健やか子育てガイドを作成している。本研究では保健指導の観点から、保護者が感じる育児困難感とメディアの活用状況には関連があるという仮説をたて検証したので報告する。

対象と方法：4、5か月児健診303名、9、10か月児健診259名、1歳6か月児健診674名、3歳児健診299名、5歳児健診1269名の健やか子育てガイドの問診票を解析の対象とした。育児困難感とメディア活用に関する項目の関連性について、「イライラすることはあるか」「怒鳴ることがあるか」、及び子育てにおいて「もう無理」「誰か助けて」と感じるという育児支援希求を目的変数とし、保護者のメディア利用状況を説明変数として多変量ロジスティック回帰分析を行った。

【結果】

4.5か月健診や9.10か月健診では、保護者のメディア使用の状況と育児困難感が関連していなかった。1歳6か月健診では、保護者のイライラは就寝直前まで動画を観ること（オッズ比2.22）、見ながらの食事（オッズ比2.05）で、親がどなるはスマホでゲーム（オッズ比2.00）、見ながら食事（オッズ比2.27）と高かった。3歳児健診では、親がどなるはいつも就寝直前まで動画を観る（オッズ比2.62）と高かった。5歳児健診では、親がイライラは就寝前までの動画視聴（オッズ比1.75）、親がどなるは就寝前まで動画視聴（オッズ比1.90）、スマホでゲーム（オッズ比1.78）、見ながら食事（オッズ比1.96）、TV、動画をいつも見る（オッズ比2.70）と高かった。ただし、日中のTVやDVD視聴はどれとも関連はなく、育児支援希求もメディア利用の状況と関連がなかった。

【考察】

4.5か月健診や9.10か月健診時では育児困難感とメディアの活用に関連はなかった。1歳6か月健診以降はメディア使用と親のイライラが、3歳児健診以降はメディア使用と親のイライラやどなることには関連があるという仮説は成立した。ただし、育児支援希求までは至ってはず、昼間の動画視聴と親のイライラやどなることとは関連はなかった。そこで、保健指導上は特に就寝直前までの動画視聴や見ながら食事などのメディアの使い方に留意しておく必要がある。

O1-012

健やか子育てガイドによる検証：子どもの行動・発達と保護者の育児困難感の関連について

前川 貴伸¹、阪下 和美³、岩元晋太郎²、七種 朋子⁴、秋山千枝子⁵、河野 由美⁶、小枝 達也¹

¹国立成育医療研究センター

²国立成育医療研究センター 臨床研究センターデータサイエンス部門 生物統計ユニット

³特定医療法人生仁会 須田病院 精神科

⁴久留米大学 小児科

⁵あきやま子どもクリニック

⁶自治医科大学 小児科

【目的】

本研究班ではBiopsychosocialな視点で子育て全体を把握し保健指導を行うための支援ツールとして「健やか子育てガイド」を作成した。本ガイドは保護者が記入する「問診票」と、質問に対応した保健指導が記載された「ガイド」で構成される。本研究では、健やか子育てガイドの問診票を用いて、子どもの行動・発達の問題と保護者の育児困難感の関連を検証したので報告する。

【対象と方法】

健やか子育てガイドを用いて乳幼児健診を実施し、①4・5か月児健診303名、②9・10か月児健診259名、③1歳6か月児健診674名、④3歳児健診299名、⑤5歳児健診1269名から得られた問診票の回答を解析の対象とした。子どもの睡眠についての困り（①②）、問題行動（「かんしゃく」「叩く・ひっかく・噛みつく」（粗暴な行動））（③④⑤）、発達に関する心配（②④）の有無を説明変数、育児困難感（「イライラする」「怒鳴る」、「もう無理・誰か助けて」と感じる」（育児支援希求））を目的変数とし、多変量ロジスティック回帰分析を行った。

【結果】

乳児期の睡眠についての困りは保護者のイライラ（オッズ比②2.51）および育児支援希求（オッズ比①5.12）と関連していた。また、幼児期のこどもの粗暴な行動は全年齢で保護者のイライラ（オッズ比③2.17、④3.09、⑤2.05）、怒り（オッズ比③2.34、④2.40、⑤1.95）、育児支援希求（オッズ比③2.46、⑤1.65）と有意に関連していた。発達に関する心配について、運動発達への心配と育児困難感の間には有意な関連を認めなかったが（②④）、3歳児健診での言葉の遅れは保護者の怒り（オッズ比2.75）と、落ち着きのなさは保護者のイライラ（オッズ比3.32）および怒り（オッズ比2.70）とそれぞれ有意な関連を認めた。

【考察】

子どものかんしゃくや粗暴な行動と、保護者のイライラや怒りの間に有意な関連を認め、さらに発達面では言語化の不熟や、落ち着きのなさは保護者の怒りと関連があるという結果であった。子どもの問題行動と、保護者の苛立ちや怒りの関連は、双方向的であると考えられる。子どもに問題行動を認める場合、多くの保護者が支援を必要としている。親子の関係性を適切に評価すること、子どもの問題行動や、保護者の怒りのコントロールについても適切なアドバイスを行うことが求められる。